

平成 28 年度 学校評価報告書（実施結果）

| 視点 | 4年間の目標 (平成28年度策定) | 1年間の目標 | 取組の内容 | | 校内評価 | | 学校関係者評価 (3月27日実施) | 総合評価(3月31日実施) | |
|-------------------|---|---|---|---|--|--|---|---|--|
| | | | 具体的な方策 | 評価の観点 | 達成状況 | 課題・改善方策等 | | 成果と課題 | 改善方策等 |
| 1 教育課程 学習指導 | 社会的・職業的自立に必要な力を育てる教育課程編成や組織的な授業改善に取り組む。 自己肯定感を育む学校行事や生徒会行事等の充実をはかる。 | 確かな知識と活用する力を育てる教育課程を編成し授業改善を推進する。 主体的に学び行動する力を育む文化祭・体育祭等の充実を図る。 | 「身につけさせたい力」を伸ばす教育課程を編成する。 各教科・科目の「身につけさせたい力」を明確にしてこれに必要な授業改善に取り組む。 体育祭・文化祭を生徒会役員が中心になって自主的に企画運営できるよう支援する。 ボランティア委員会の活動を活性化させ生徒の自己有用感を育むボランティア活動に参加する機会を増やす。 | 具体的な方策を盛り込むことができたか。 各教科で「身につけさせたい力」を明確にして授業改善に取り組むことができたか。 各行事に生徒の達成感等が得られているか。 生徒のボランティア活動が活性化されたか。 | 身につけさせたい力の学校・教科全体でのコンセンサスを形成し研究授業や授業評価により組織的に授業改善をすすめた。 ・「カリキュラム検討WG」を発足し基礎学力向上に資する30年度入学生教育課程案をまとめた。 体育祭は応援団の自主練習など生徒の主体的な活動を引出した。 ・文化祭でアンケートに「よかった」と答えた生徒が96%に達した。 ・生徒のボランティア委員会を創設し高齢者・障害者施設等でボランティア活動を実施、手話研修会を開催するなど手話の普及・啓発に取り組んだ。 | 生徒の主体的な取組みを重視した参加型授業の実践にむけた研修会の開催。 ・30年度入学生の教育課程の身につけさせたい力を踏まえた実施・展開の準備。 生徒が達成感を得られる学校行事の充実。 ・生徒中心の企画・運営を促進する方策の開発と働きかけの継続。 ・生徒がより主体的に活動に取り組めるようするための、テーマを与えるなどの委員会指導。 | ○平成30年度教育課程編成や校内の授業改善等、今年度も沢山の立派なプログラムが、学校の取組として見られた。継続を期待する。 | ○平成29年度入学生教育課程表に学力の底上げと進学を目指す学力達成のための手立てを具体化した。 ○「育てたい生徒像」を明確化した「身につけさせたい力」の成長を図る教育課程の編成により、ダイバーシティを意識した生徒の二重に対応できる平成30年度カリキュラムの枠組が完成した。普通科と美術科、相互に科目選択できる仕組み等の具体化が課題である。○美術科の開設に向けて教育課程の編成の構築など、準備を着実に推進した。 定期試験について全科目一部共通化を図った。○授業時間の確保について、平成28年度31週、平成29年度33週を確保することができた。平成30年度35週に向けた工程を確立した。 | ○29年度入学生教育課程表の二つの目標の達成に向けた具体的な手立ての検討を通じて現行カリキュラムのもとでの授業改善を推進する。 平成30年度教育課程を普通科・美術科併置校としての魅力を具体化する教育課程として、さらに充実させる。また、新教育課程に添った施設設備の整備を推進し、活用に向け具体化する。 ○本校のミッションに基づく生徒指導と学習指導の一体的な展開にグループ・教科・学年がそれぞれのテーマを設定して取り組むカリキュラム・マネジメントを確立する。 ○美術科専門科目の指導内容の充実、施設設備の整備、外部機関との連携の構築を一体化したカリキュラム・マネジメントを確立する。 |
| 2 生徒指導・ 支援 | 自己管理能力を育てるルール・マナー指導に取り組む。 生徒一人ひとりの課題を支援する教育相談体制等の充実を図る。 協調性や主体性を育てる部活動等の活性化を推進する。 | 規範意識の向上と生活習慣の確立をめざした生徒指導に取り組む。 校内教育相談組織を活用して個々の生徒を支援する。 部活動等の支援と手厚い指導に取り組む。 | 校内巡回や頭髪・服装指導、バス・自転車乗車指導等、日常的・定期的な指導に全教職員で取り組む。 始業時着席や携帯電話等の指導を徹底し授業マナーの向上を図る。 問題行動の未然防止につとめ発生時には即応し事後指導にあたる体制を整える。 ケース会議の実施、支援シートを活用、外部機関との連携など、組織的に教育相談体制を確立する。 部活動に参加しやすい環境を整え加入を促進するとともに活動の活性化を図る。 | 規範意識の向上は見られたか。 生活習慣の確立を促すことができたか。 教職員が生徒の課題を共有し支援することができたか。 部活動への関心を高め、部活動を活性化させることができたか。 | 頭髪、服装に係る再登校指導ならびに授業中の携帯電話使用に係る指導は減少した。近隣からの苦情件数は減少傾向にあるが、依然として登下校中のマナー指導に課題を残す。 教育相談体制を整備し、支援を必要とする生徒の把握、全職員による生徒情報の共有、教育相談活動の質・量ともに充実した。 部活動加入率は44%で微減だが運動部の加入率は上昇。放課後や休日の部活動に活気のある状態は続いている。 | 生徒一人ひとりの自己管理能力の向上を図る。 ・全職員体制によるルール、マナー指導の取組。 ・バス乗車など登下校時の規範意識とマナー向上への指導にも力を入れる。 家庭環境(成育歴、経済状態等)に基づく課題への対応が求められている。 ・支援を必要とする生徒に対する教育相談の充実。 ・外部専門機関との効果的な連携。 部活動加入率は依然、低い。 ・中学生への広報活動や新入生への入部案内や勧誘活動にさらに力を入れる。 | 先生方がよく努力をされているが完璧ではない。バスの乗車マナー違反や自転車の二人乗り、下校時のマナー等を継続することが大切である。 ○生徒自身に自ら責任を持たせる、保護者も共に考えさせる指導が必要だ。 ○スマートホンの使用法についての対策が必要だろう。 | ○年度の課題に即した取組により特別指導の効果が上がり、生徒への周知徹底を図ることができた。 ○問題行動への素早い対応が未然防止へとつながった。 支援を必要とする生徒の情報を非常勤講師を含む全教職員が共有し課題に対処できる体制を整えるとともに、教育相談コーディネーターを核とした教育相談体制を確立し複雑化する生徒の課題に組織的に対応することができた。 | ○生徒指導と学習指導の一体的な展開を通じた生徒の自己管理能力と規範意識を育成する体制の構築に取り組む。 ○生徒の特性を踏まえた支援教育の視点を持った生徒指導の推進を図る。 |

| | | | | | | | | | | |
|---|--------------|--|---|--|--|---|---|--|--|---|
| 3 | 進路指導・支援 | <ul style="list-style-type: none"> 生徒一人ひとりの自己実現を支援する進路指導の充実を図る。 | <p>キャリアプランニングの支援を充実させる。</p> <p>自己実現を支援する補習・講習と個別ガイダンスの実施に取り組む。</p> | <p>キャリアノートの活用など3年間を見通した指導計画を開発し実施する。</p> <p>上級学校訪問や教育実習生による講演など進路学習機会の開発を推進する。</p> <p>長期休業等を活用した補習・講習を行い学力の定着と伸長を図る。</p> <p>一人ひとりの進路希望に基づく個別ガイダンスを計画に基づき実施する。</p> | <p>適切な資料を提供し説明会等を実施することができたか。</p> <p>個に応じた多様な進路の実現を支援できたか。</p> | <p>1年は「職業体験授業」2年は「分野別説明会」「上級学校/ハローワーク見学」3年は模擬面接、志望理由書、自己推薦文の書き方指導等の実践的な進路支援を実施。</p> <p>夏期講習23講座開講、延べ83名の受講があった。その他に年間を通じて希望する生徒及び必要な生徒に対する指名補習を随時実施した。</p> | <p>将来の進路を考える意識が低い生徒が多い。進路希望調査、個人面談・上級学校訪問などを通じた意識付けを図る。</p> <p>引き続き補習講習の充実を図る。引き続き学年ごとに個別ガイダンスを実施する。</p> | <p>○白山高校は本当にあたたかい学校である。先生方は一人ひとりの生徒をよく見て、丁寧な進路指導を行っている。家庭があつての子供なので保護者と先生との連携も大切である。</p> | <p>○長期休業中等の補習の参加が増えた。ガイダンス等とともに生徒をよく見て、丁寧な進路指導を行っている。家庭があつての子供なので保護者と先生との連携も大切である。</p> <p>○自己実現を目標にした3年間を見通す進路指導により4年制大学進学者の増加、未定者の減少等、成果が上がった。</p> | <p>○基礎学力の定着と進路希望に応える補習・講習の組織的かつ計画的な実施に取り組む。</p> <p>本校の「身につけさせたい学力」に基づく「基礎学力の充実」をさらに推進し、基礎学力の定着、応用力の向上により進、生徒一人ひとりの進路にあわせた具体的な手立て構築する。</p> |
| 4 | 地域等との協働 | <ul style="list-style-type: none"> 地域等との連携に努め地域と共にある学校づくりを推進する。 | <p>生徒会や各種生徒委員会による地域貢献活動に取り組む。</p> <p>美術科併置予定校の特色を活用した地域連携を推進する。</p> | <p>地域清掃やボランティア活動等の充実を図り地域防災活動等への参加にも取り組む。</p> <p>地域ならびに大学等との連携を推進する。</p> <p>学校評議員会議やPTA活動の活性化を図る。</p> | <p>生徒の自己肯定感の向上につながる活動となったか。</p> <p>地域防災訓練に参加できたか。</p> <p>外部との連携を推進できたか。</p> <p>学校関係者・保護者の意見を学校運営に反映できたか。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 地域と協力体制を構築しながら夏季休業中のボランティア活動をスタートさせることができた。 9月に地域の防災訓練に美化委員生徒が参加。 大倉山記念館とみどりアートパークで開催した校外展に延べ558名が来場、2回の穴窯焼成に延べ246名の見学者があった。 地区高P連副幹事校として主管した交通安全高校生PTA大会の運営を生徒実行委員会と連携して開催した。 | <ul style="list-style-type: none"> 今年度のボランティア活動の成果を土台として、生徒への周知方法の改善等に取り組む。 地域防災訓練への参加について本年度の内容を検証し、より主体的参加となるよう工夫する。 美術展、穴窯焼成、学校説明会、授業体験を広報の核として更なる充実を図る。 PTA役員改選での学校側のサポート体制と保護者懇談会と総会等の充実・改善に努める。 | <p>○美術科が新設されるので必要なお手伝いしたい。</p> <p>○生徒による地域清掃、地域による清掃により、地域は確かにきれいになった。今後は、捨てさせない指導を期待する。</p> <p>○地域の福祉祭まつり等にも協力いただき、地域との関わりを深めてほしい。</p> <p>○生徒・保護者アンケートからは部活、行事、基礎学力の充実、選択科目の多さに対する満足度が高かった。一方で保護者アンケートの回収率が低いのが残念である。</p> | <p>○ボランティア委員会を立ち上げ、手話講習会の実施、地域施設への訪問などを通じ、地域と連携した活動の活性化を図った。</p> <p>白山高校のミッションに基づき、美術科のカリキュラムの内容を具体化し、行事予定を完成させた。外部機関（美術大学や美術館、美術予備校）との連携した事業や、古美術研修旅行など、特色ある魅力的なプログラムを策定した。</p> | <p>○近隣施設等、積極的に交流を図りながら、生徒によるボランティア活動等をはじめとした地域貢献活動のさらなる充実を推進する。</p> <p>○説明会や公式ホームページなど広報公聴のさらなる充実を図る。</p> <p>地域との協働・連携を推進し地域貢献活動の活性化を図るとともに、学科改編に伴う特色づくりの推進に資する地域との協働の研究開発を進める。</p> |
| 5 | 学校管理 学校運営 | <ul style="list-style-type: none"> 組織的な学校運営と教育環境の整備に取り組み学校教育力の一層の向上を推進する。 | <ul style="list-style-type: none"> 組織的な学校運営と不祥事防止に取り組み信頼される学校づくりを推進する。 | <p>新しい学校評価システムに基づく評価活動を着実に実施し学校運営の改善を図る。</p> <p>本校の指導内容や美術科併置の取組などを説明会・HP等により広報し参加者等からの広聴に努める。</p> <p>教職員一人ひとりが自らの業務を点検し改善を図る不祥事防止活動に取り組む。</p> <p>学科改編ならびに耐震・老朽化対策の準備作業を的確に行う。</p> | <p>評価を実施し学校運営を改善できたか。</p> <p>分かりやすい広報ができたか。要望や意見を受け止めることができたか。</p> <p>不祥事防止活動の手立てを開発できたか。</p> <p>環境整備等ができたか。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 学校評議員会、PTA各種会議での意見、授業参観時のアンケート結果などから運営改善に役立つ意見を得ることができた。 第1回学校説明会334名、授業部活動体験159名、第2回説明会427名、第3回説明会には493名の参加があり保護者や中学校へ丁寧な広報活動ができた。 業務改善や不祥事防止に係る階層別研修を実施し意識向上に成果を上げた。 学科改編、耐震化WGを立ち上げ、美術科新設や耐震化工事プレハブ設計等にも対応した。 | <ul style="list-style-type: none"> 広報広聴の充実と拡大に向けた機会の開発に取り組む。 今年度に取り組んだ不祥事防止研修の成果を検証し、より効果的な研修を実践する。 工事開始に向けた諸準備を着実に進める。 | <p>耐震化工事については、地域の関心も高いので、具体的な内容が明確になったところで情報を知らせてほしい。</p> <p>防災の中で「自助共助」を考えるべきだ。</p> | <p>○耐震化工事、美術科設置に伴うスケジュールを整理し、教室移動計画を整備した。</p> <p>○次年度に向け、高校生として防災に対し出来る事を考えさせていくことが課題である。</p> | <p>○普通科・美術科併置のメリットが発揮できる学習環境の構築につとめる。</p> <p>○防災備蓄の充実と地域防災活動への参加に取り組む。</p> <p>○美術科・普通科併置の特性を引出すテーマコミュニティに立脚する学校運営協議会の開設に向けた準備を進める。</p> <p>○コンプライアンスの徹底を通じて事故不祥事の根絶を図る。</p> |